

東洋と西洋が融合した建築美に酔いしれる

雲仙温泉

雲仙観光ホテル

長崎県雲仙市

取材・文・撮影 歌岡泰宏

モ クモクと噴気が上がり、強い硫黄の匂いが充満する雲仙地獄から徒歩5分。敷地に入るとすぐに、両側を緑の木立に挟まれた石畳のアプローチの先に、赤い切妻屋根の洋風建築が顔をのぞかせた。

建物に近づくと、柱や梁などの木造骨組みが外部に突き出し、骨組みの間は溶岩石を埋め込んだ壁になっていることがわかる。中世ヨーロッパで見られるハーフトインバーという建築様式を模した造りである。館内に入ると、ロビーから客室まで重厚な調度品やアンティーク家具が配され、懐かしくもクラシックな雰囲気を漂わせていた。

雲仙観光ホテルは、雲仙が日本初の国立公園に指定された翌年の昭和10年10月10日に開業。平成29年に82周年を迎える。平成15年、国の有形文化財に登録されたのをきっかけに、5年にわたる改修工事を実施。扉や照明、インテリアなど開業当時の面影を残すデ

テールはそのままに、客室から浴室まで、現代ホテルの快適さを提供するためにリノベーションを行った。

改修にあわせて料理も一新されている。わけても創業当時の姿をほぼ残す約200畳のダイニングで供されるフレンチは格別だ。地産地消にこだわった華やかな料理の数々は、この宿にふさわしい伝統と品格、そして新しい時代の空気を感じさせてくれる。



①大きな中央階段が印象的なロビー。②中央階段の柱などは手斧削りという日本の職人技で木の表面がさざ波のように削られている



③「ドアノブは創業時のもので外国人用に約130cmの高さに設置されています」とスタッフの田中秀磨さん。④客室の古い柱もインテリアの一つ。⑤改修時、客室に19世紀イギリスの芸術家、ウィリアム・モリスの壁紙を採用



⑥かつて外国人たちがダンスパーティーを開き、国内外の文化人や財界人が集ったダイニング。⑦季節ごとにメニューが変わる本格フレンチ。食事のみの利用も可能で写真は1万6200円のディナーコース



☎0957・73・3263 / 1泊2食3万7950円～（日帰り入浴11:00～17:00受付、無休。1080円。※食事またはラウンジを利用する場合のみ利用可）/ 39室/ 酸性・含硫黄・アルミニウム・硫酸塩泉 / 長崎県雲仙市小浜町雲仙320 / JR長崎本線諫早駅からバス1時間20分の西入口下車、徒歩1分（JR諫早駅、長崎空港から送迎あり。要予約）。☎長崎自動車道諫早ICから1時間



スイスシャレーと呼ばれるスイスの山小屋風の外観



ドーム型天井とアールデコ調のタイルが特徴の洋風温泉浴室